



大槻さん制作のパネル。村のよさを発信



それぞれの展示に楽しい工夫が



この学校の卒業生・長谷川友絵さん（左）が母親の圭子さん（宮内）と観覧を楽しんでいました。「思い深い学校に来る機会として、いいなと思いました」と友絵さん。圭さんは「皆さんの熱意が伝わり感動。うれしくなりました」と輝く笑顔。



ユニークなワークショップも

「モノは捕らえよう」展



昭和時代を彩った雑誌の表紙がずらり。デザインにも時代の流れが色濃く表れています。懐かしのアイドルが飾った表紙の前で思わず足が止まります。

8月15日から30日まで、旧草野小学校の校舎で、「モノは捕らえよう」展が開かれました。市原実さん（千葉県）、澁川定夫さん（千葉県）から村に寄贈された珍しいコレクションの数々を、村内外の皆さんにお披露目しようという企画で、飯館村地域おこし協力隊の3人が奮闘しました。猛暑の中、校舎内の片づけに始まり、村のよさを発信するための取材や展示制作、コレクションのディスプレイ、ワークショップの企画など、3人が力を合わせて、仕事をこなしていききました。移住定住交流促進アドバイザーの小垣外明子さんも、展示棚の製作などに協力しました。校舎内は、きれいに整えながらも、当時の面影を大事に残しました。「この学校に通った方の思いも大切にしたい」。センスとやさしさにあふれた素敵な展示となりました。

地域おこし協力隊
本領発揮の夏！

よくぞ、じつじつまで
暑い夏を、さらに熱く

モノカラ市「山の向こうから」



モノづくりの魅力
イベントで発信

8月16日には、二瓶麻美さんが、活動拠点の「やすらぎ工房（旧草野幼稚園）」の前庭で、モノカラ市「山の向こうから」を開催。魅力的なモノづくりを行う人が個性豊かなブースを連ね（デントは二瓶さんの力作）、村内外から約500人が来場しました。11月には、さらに規模を拡大して開催の予定。日時や会場は、次号広報でもお知らせします。

心ひかれる場所に
人は来る



旧草野小学校の校舎と、村に寄贈されたコレクションを生かし、この展示をつくり上げた地域おこし協力隊の3人。松本奈々さん（右）は校舎をアトリエとするクリエイターの拠点づくりを進めています。大槻美友さん（中央）は、今回の展示の主担当で、村内を取材した展示で村の魅力も発信しました。二瓶麻美さん（左）は、2人の活動をサポート。8月16日には、モノカラ市「山の向こうから」（左の記事）を開催しました。